

令和8年5月1日

新規

重要文化財・旧三上家住宅で歴史講座を開催します。

～旅人たちが見た・聞いた・感じた 宮津・天橋立の魅力を探る～

明治41年(1908)、ドイツ人作家のベルンハルト・ケラーマンと、スイス人画家のカール・ヴァルザーが宮津を訪れ、近代宮津の姿を描き出しました。本年度、東京ステーションギャラリー、大阪中之島美術館において日本初となる「カール・ヴァルザー展」が開催され、宮津を描いた絵画が出展されます。地元でも関連事業として「ケラーマンとヴァルザーが愛した MIYAZU プログラム」を展開し、ケラーマン、ヴァルザーの視点から宮津の魅力を探ります。

本講座では、ベルンハルト・ケラーマン、カール・ヴァルザーの宮津での足跡を紹介するとともに、古代・中世から近代にわたり、宮津や天橋立を訪れた旅人たちの姿をたどります。

事業名

ケラーマンとヴァルザーが愛した MIYAZU プログラム
旧三上家住宅歴史講座、丹後郷土資料館文化財講座「旅の風景ー宮津と天橋立ー」

日時と内容

5月から10月の第4土曜日(全6回)(内容の詳細は別紙「開催要項」参照)
午後4時から5時

会場

重要文化財・旧三上家住宅

その他

- ・先着30名(参加無料・事前申し込み不要) ※受講者は入館料無料
- ・車でお越しの方は、「市営駐車場(浜町)」をご利用ください。

【担当者のコメント】

ケラーマンやヴァルザーなど旅人たちの視点から宮津や天橋立の魅力を感じられる歴史講座です。旅人たちが惹かれた宮津や天橋立の魅力を様々な切り口から紹介します。

お問い合わせ先

教育委員会事務局 / 社会教育課(文化財保護担当)EL:0772-45-1642

ケラーマンとヴァルザーが愛した MIYAZU プログラム
 旧三上家住宅歴史講座・丹後郷土資料館文化財講座
 「旅の風景 ー宮津と天橋立ー」

【開催要項】

1 趣旨

明治41年(1908)、ドイツ人作家のベルンハルト・ケラーマンと、スイス人画家のカール・ヴァルザーが宮津を訪れ、近代宮津の姿を描き出しました。本年度、東京ステーションギャラリー、大阪中之島美術館において日本初となる「カール・ヴァルザー展」が開催され、宮津を描いた絵画が出展されます。地元でも関連事業として「ケラーマンとヴァルザーが愛した MIYAZU プログラム」を展開し、ケラーマン、ヴァルザーの視点から宮津の魅力を探ります。

本講座では、ベルンハルト・ケラーマン、カール・ヴァルザーの宮津での足跡を紹介するとともに、古代・中世から近代にわたり、宮津や天橋立を訪れた旅人たちの姿をたどります。

- 2 主催 宮津市教育委員会、京都府立丹後郷土資料館
 後援 NPO 法人天橋作事組(旧三上家住宅指定管理者)

- 3 会場 重要文化財旧三上家住宅

- 4 日時・内容 午後4時から5時まで

		演題	講師
第1回	5月23日 (土)	ケラーマンとヴァルザーが愛した宮津	河森一浩 宮津市教育委員会
第2回	6月27日 (土)	旅の風景 ー宮津と天橋立ー	河森一浩 宮津市教育委員会
第3回	7月25日 (土)	中世の旅 ー僧侶と武士の旅と文化ー	鶴岡衛大 宮津市教育委員会
第4回	8月22日 (土)	蕪村をたどる ー俳人・河東碧梧桐の旅ー	竹下浩二 与謝野町教育委員会
第5回	9月26日 (土)	与謝野寛・晶子の旅の歌	竹下浩二 与謝野町教育委員会
第6回	10月24日 (土)	絵になる宮津 ー天橋立の景色と旅する人々ー	杉田真菜 京都府立丹後郷土資料館

- 5 定員 30名(申し込み不要/当日先着順)

- 6 参加費 無料

ケラーマンとヴァルザーが愛したMIYAZUプログラム

旧三上家住宅歴史講座・丹後郷土資料館文化財講座

旅の風景

— 宮津と天橋立 —



明治41年（1908）、ドイツ人作家のヘルンハルト・ケラーマンと、スイス人画家のカール・ヴァルザーが宮津を訪れ、近代宮津の姿を描き出しました。

本講座では、ヘルンハルト・ケラーマン、カール・ヴァルザーの宮津での足跡を紹介するとともに、古代・中世から近代にわたり、宮津や天橋立を訪れた旅人たちの姿をたどります。

会場 重要文化財 旧三上家住宅

時間 16:00～17:00

定員 先着30名(参加無料・事前申し込み不要)

開催日 5月から10月の第4土曜日（全6回）



第1回 5/23 「ケラーマンとヴァルザーの愛した宮津」
河森一浩（宮津市教育委員会）

第2回 6/27 「旅人の風景—宮津と天橋立—」
河森一浩（宮津市教育委員会）

第3回 7/25 「中世の旅—僧侶と武士の旅と文化—」
鶴岡衛大（宮津市教育委員会）

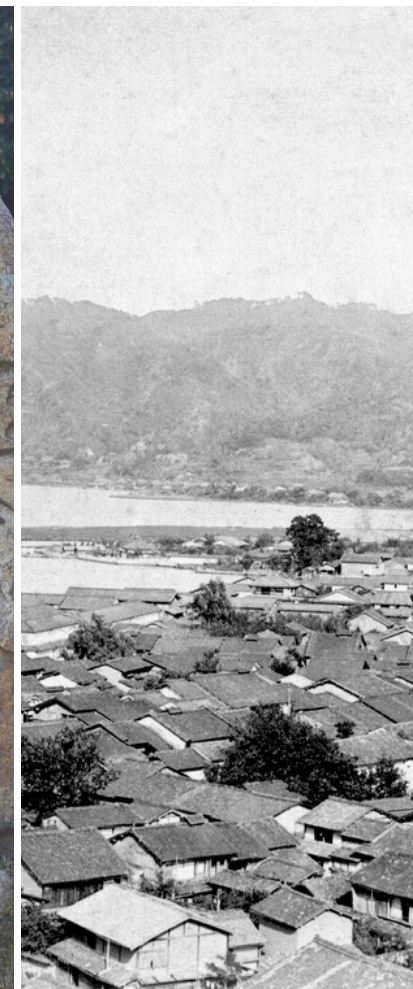
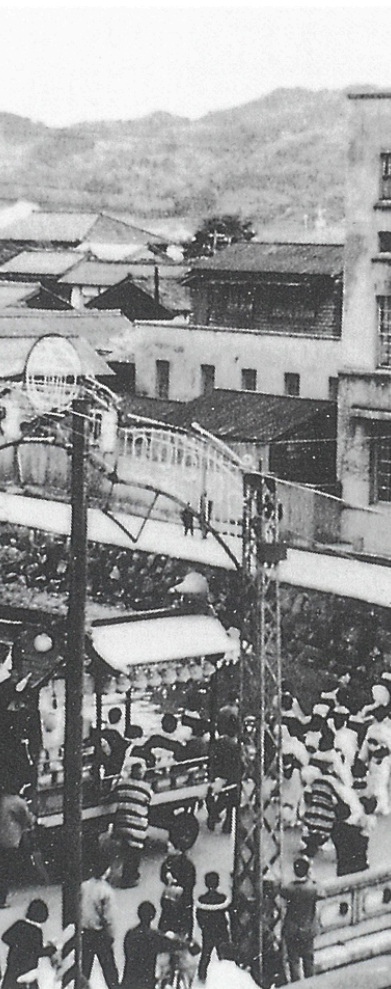
第4回 8/22 「燕村をたどる—俳人・河東碧梧桐の旅—」
竹下浩二（与謝野町教育委員会）

第5回 9/26 「与謝野寛・晶子の旅の歌」
竹下浩二（与謝野町教育委員会）

第6回 10/24 「絵になる宮津—天橋立の景色と旅する人々—」
杉田真菜（京都府立丹後郷土資料館）

主催：宮津市教育委員会 京都府立丹後郷土資料館 後援：NPO法人 天橋作事組

お問い合わせ：宮津市教育委員会社会教育課（文化財保護担当） TEL:0772-45-1642



旅人が心惹かれた
宮津・天橋立の魅力とは？

カール・ヴァルザー日本初の回顧展が東京・大阪で開催！
絵画や素描など約150点の作品すべてが日本初公開

東京

スイス絵画の異才 カール・ヴァルザー 世紀末の昏き残照

会期 2026年4月18日(土) - 6月21日(日)
会場 東京ステーションギャラリー
休館日 月曜日 [ただし5/4、6/15は開館]
開館時間 10:00 - 18:00 [金曜日は20:00まで]



大阪

スイス絵画の異才 カール・ヴァルザー

会期 2026年7月4日(土) - 9月27日(日)
会場 大阪中之島美術館
休館日 月曜日
[ただし7/20、8/10、8/24、8/31、
9/7、9/14、9/21は開館]
開館時間 10:00 - 17:00



ケラーマンとヴァルザー

明治41年(1908)、二人の外国人が宮津を訪れました。ドイツ人の人気作家、ベルンハルト・ケラーマンと、スイス人の画家、カール・ヴァルザー。出版社の企画で来日し、帰国後に『日本散策記』(原語:Ein Spaziergang in Japan)、『さっさよ やっさ 日本の踊り』(原語:Sassa yo Yassa. Japanische Tänze)をベルリンで刊行しました。

ベルンハルト・ケラーマンは『日本散策記』の中で、宮津での日々を「ぼくは日本に滞在中、最もすばらしい時をここで過ごした」と語っています。東京、京都、宮島、伊勢など日本各地をめぐるしました。

2人は、宮津を最も気に入り、荒木旅館に滞在。宮津の人たちと交流を重ね、その眼差しは、まちの素朴な美しさや、足繁く通った茶屋「山中」の芸子たちの歌と踊り、祭りにたずさわる人々の姿に向けられました。

ベルンハルト・ケラーマンの文章と、カール・ヴァルザーの挿画は、明治時代の宮津を生きいきと描き出し、その文化を海外に発信しました。現在もスイスの国立図書館や美術館には、カール・ヴァルザーの絵画が所蔵され、日本滞在中の作品も多く確認されています。



宮津市特設サイト
「旅と宮津」